

# はばたき



NO.23

1988.3

神戸市立王子動物園

## ある演出

今年建国 200年を迎えたオーストラリアに昨年ツアーに参加し、その折カランビン野鳥園を訪れ、非常に感銘を受けましたので、その一端を報告いたします。

カランビン野鳥園は、神戸市と姉妹都市になっているブリスベーン市から90kmぐらい離れた、ウオターフロントのリゾート地として一躍脚光を浴びているゴールドコーストの、やや南のゾーンにある面積20haの、オーストラリアにしては小じんまりとした動物園である。

この園の特徴は、オーストラリア産の動植物を自然なかたちで展示しているところにある。例えば、コアラの展示場は簡単な人止め柵の中に5本のユーカリの樹があり、その1本1本にコアラを止まらせているだけの簡単なものであるが、さすがに原産地だけあり見事に周りの風景にマッチしている。

カンガルーやワラビーたちも簡単な柵だけの展示である。100種570点のは乳類、鳥類が飼育されているが、この他に何百羽の野鳥が園の周囲に群がっている。一日2回この野鳥（非常に美しいLorikeet・ゴシキセイガイインコ）の餌付けがこの園の売物で、大勢の人々もこれを期待して来園している。

餌付けのアリーナーの周りには簡単な柵があり、約 300㎡の広場は満員の盛況で、時間が来るとアルミの皿を配り、パン屑を水でふやかした餌を入れて回る。大勢の人が手を伸ばして待っているが少しも慌てることなく時間をかけて配っている。柵の中には2台の回転餌付け台がありそれにも同じパン屑の餌を入れてゆつくりと回しはじめる。人々は手を一杯頭の上に伸ばして今か今かと待っているが、初めのうちはなかなかそばまで寄って来ない。回りの木の上で様子をうかがっているようだ。係員は盛んに呼び掛けをするが下りて来ない。やっと数羽の鳥が下りて来だした

ところ頭上にゴーという音と共にジェット機が飛び去った。一瞬ウーと言う嘆声が上がったが、呼び掛けが効を奏したのかどンドン下りて来てそれぞれの皿に取り付きはじめた。小さな子供は半べそな顔で頭や手に何羽も止まらせている。

そこには野鳥と人々との素朴な親しみのある風景が展開されていた。僅かな仕掛けと餌で非常に大きな効果を生みだしている。

やがて人々は、短い時間であったが自然の動物とのふれ合いを胸に帰って行く。子供たちは何時までも何時までもこの体験を胸深くしまつて。

現在の動物園の在り方については、色々な意見があり様々な論議があるが、自然の動物と如何に上手く付き合うかということを教えられた、見事な演出であった。

神戸市立王子動物園長 福岡 順三

## も く じ

◆ある演出	2
◆ペンギンの換羽	3
◆動物育児日記	
●レッサーパンダの子育て	5
●新しい仲間	6
◆おもしろ動物写真館	8
◆飼育うらばなし	10
●グリーンイグアナの展示	10
●動物病院珍問答	11
◆動物なぜなぜ問答	
●オオヤマネコの尾はなぜ短かいのですか？	12
●どうしてシロクマは南極にいないのですか？	12
◆動物もの知り手帳	
●フリーディングローンのお話し	13
◆動物科学資料館の手引②	14
◆トピックス	15

表紙写真 ユキヒョウ

(撮影 福田元二)

# ペンギンの換羽



皆さんは、ペンギンの換羽のご存知でしょうか。換羽とは、古くなった羽が新しい羽に抜けかわることをいいます。

哺乳類のネコ、イヌ等の毛替りと同じです。換羽は、温度や日照時間等に影響され、起ってくるのが分っています。

ほんとうにそうでしょうか。そこで私たちは、30年前からのペンギン飼育記録を調べてみました。

## (ペンギンの種類)

ペンギンは南極とその周辺の島々に住んでいて、17種類が知られています。そのうち当園では、現在

キングペンギン	3羽
イワトビ	5羽
マカロニ	4羽
マゼラン	10羽
ファンボルト	10羽

の計32羽を飼育しています。

## (換羽の時期)

これまで30年間のキング、イワトビ、ファンボルトの3種について附図に集計しますと、

キングは 11月～2月、4月～6月

イワトビは 7月中旬～10月中旬

ファンボルトは 7月～10月

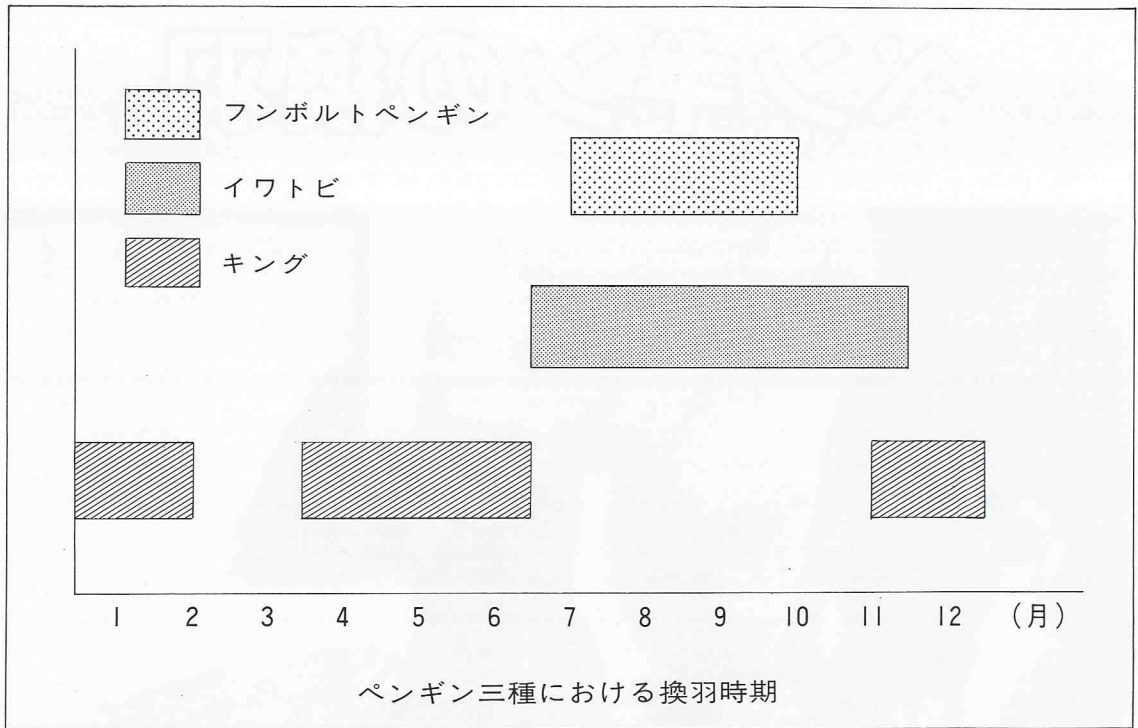
と、確かに温度や日照時間が同じ季節に換羽が集中していることが分かりました。また、換羽のあとに産卵していることも分かりました。

## (換羽の経過)

換羽が始まる前、食欲が出てよく肥ってきます。2～6週間もかかる換羽に備えているのでしょう。その経過は次のとおりでした。

- ①全身の羽毛が、逆立ってくる。
- ②絶食、泳がなくなる。
- ③よく動かせる所から、羽が抜け始める。
- ④全身の羽が落ちてから、プールの中に入り餌を食べる。

このような状況を観察していると、動きが少なく、餌（アジ）も食わずに体はやせ衰え、元気がありません。この間に、増えた体重の半分近くが減ってしまいます。しかし、古い羽の下には新しくきれいな羽が生えており、日がたつにつれ古い羽が落ち、見違えるようなきれいな体になります。いままで元気がなかったのに、換



羽が終ると元気がなかったのがうそのようです。動きは活発になり、プールの中に入って餌をよく食べ、跳びはねたり水中を元気に泳ぐ姿が見られほっとします。古い羽、食べ残しの餌もなくなり、プールが一段ときれいになってきました。

#### まとめ

以上、お話した羽のはえかわり(換羽)は、ブンチョウやセキセイインコでも見られますが、彼らは空を飛ばなくてはなりませんので、ペンギンのように短期間に、また一度に羽が抜け落ちたりはしません。毎日2~3本の羽が抜け、長い間かかって換羽します。ペンギンの住む寒冷な地方では、このように長い期間がかかる命とりになりかねません。うまい仕組みになっているのですね。

子供たちは、ペンギンの換羽の様子を見て、「きたないなー」「病気とちゃうか」などとよく言っていますが、

(三角勝利)

このような換羽の不思議さにも興味をもってもらいたいと思います。

ペンギンたちは、動物園のプールでも野生と同じような生活を見せてくれるのです。



# 動物育児日記

## ◆レッサーパンダの子育て

王子動物園では、昭和49年からレッサーパンダを飼育していますが、昨年7月に初めて待望の赤ちゃんが生まれました。この動物は神経質で、周りが騒いだり、見知らぬ人が入ると母親が生まれたばかりの子どもを食い殺すことが多いと言われています。そこで、当園ではできる限り静かな環境におき、安心して母親が育児できるように心がけた結果、子どもは立派に成長し



ました。この子育ての様子をお知らせしましょう。

昨年7月の初めごろ、雌の洋洋は落ちつきがなく、竹の細い軸を盛んに巣箱へ持ち運ぶ様子が見られました。7月7日の朝、舎内に入るといつも近寄ってくるのに、その日は巣箱から出て来ません。もしやと思いましたが、すぐに巣箱をのぞくことはできず、その日はそのまま放っておきました。翌朝も同じ状態で、好物のぶどうも手をつけていません。やはり生まれたなと思いましたが、今が最も大事な時で、音もたえずに静かにしてやりました。

3日目の夜には、ぶどうやさつまいもを食べていることが分かり、母親が元気であることが確認されました。4日目の朝も洋洋は巣箱から出てこないの、ソーとふたを開けて、中をのぞきますと、奥に座っている母親の下腹部に白っぽいぶ毛で包まれた小さな物体がかすかに動いています。これが子どもで、頭を左右に動かしながら乳を吸っています。やっぱり生まれてたと感動すると共に、立派に育つんだよ、と心の中で励ましてやりました。

6日目になると母親は巣箱から出る時間が長くなりましたが、子どもがピーピーと鳴くとすぐに巣箱へ帰り、母性愛の強いことを示しています。10日目ごろには子どもはずいぶん大きくなり、体の毛も淡い茶色になり、動きも活発にな

りました。しかし、母親は子どもをたえず巣箱の奥へかくそうとします。

3週間たつと母親と子どもは別々の巣箱に入っていて、親子が離れる時間が次第に多く、子どもの体色は濃い灰色に変わり、目の周りには赤茶色が目立ち、体長も生まれた時の3倍にもなりました。

1カ月たつと子どもの色は親と変わらないようになり、顔も茶に白い模様が目立ってきましたが、まだ童顔が残っています。1カ月半になると巣箱から顔を出すようになりましたが、音に対して敏感で、人の足音や木の枝がゆれる音にもびっくりするほどです。これまでは母親の乳を吸っていましたが、2カ月ごろより母親がえさを食べているのを見てまねをするようになり、りんごやぶどうにも口をつけるようになりました。

このころから外へ出る練習も始めましたが、必ず母親が先に出て安全を確認してから子どもが外へ出ます。少しでも怪しい気配を感じると母親は子どもをくわえて巣にもどります。外の運動場へ出るようになると、見るものがすべて珍らしく、鼻でおいを嗅いでみたり、前足でちょっとさわってみたり、動くものに驚いたり、小さな丸い目をきょろきょろさせながら運動場を動き回るしぐさは実に愛らしいものでした。木に登って降りれなくなったり、母親の後を追

いながら遊ぶ姿は大へんほほえましいものでした。運動場で遊ぶようになってからは竹の葉もよく食べ、みるみる大きく成長しました。

今年の1月には母親は次第に子どもから離れ始め、夜も別々に寝るようになり、子別れの時期がやってきました。そこで1月15日には別の隔離舎に子どもを移し、独立させました。初めは悲しかったかも知れませんが、いずれはこの

時期を迎えねばなりません。こうすることによって一人前に成長していくのです。

この子どもは、母親の生まれ故郷である京都市動物園へ養女に行くことになり、2月5日旅立ちました。そして、京都では「優優」という良い名をつけてもらい、京都のよい子たちに愛されているとのこと。「優優」いつまでも幸せに暮らしてください！ (米沢 昌)

## 新しい仲間



### アカエリマキキツネザル

アフリカ大陸の東、マダガスカル島に住んでいます。この島は日本の本州の約3倍の大きさで、キツネザルの仲間は、この島にしか住んでいません。逆にキツネザル以外の猿は、全く生息していません。

アカエリマキキツネザルは、エリマキキツネザルの1つの亜種で、背中は赤褐色、顔、腹側、尾が黒で、首の所が白っぽくエリマキをしているように見えます。

食物は主に果物で、特にバナナが大好物です。

この珍しい2種類の猿に早く2世ができるのを楽しみにしています。

### アカエリマキキツネザル

昨年9月にクロシロコロブスとアカエリマキキツネザルという珍しい猿が来園しました。この2種類の猿がどんな猿か簡単に紹介します。

### クロシロコロブス

西アフリカから東アフリカにかけての深い森林の樹上に住んでいます。

体長は、50～70cm、尾は長く、60～80cmもあり、毛の色はその名のとおり白と黒のツートンカラーです。顔の回り、肩から腰にかけてと尾が白色で、その他の部分はまっ黒です。

野生では、木の葉や樹皮を主食としており、それを消化するため胃が数室に分かれています。

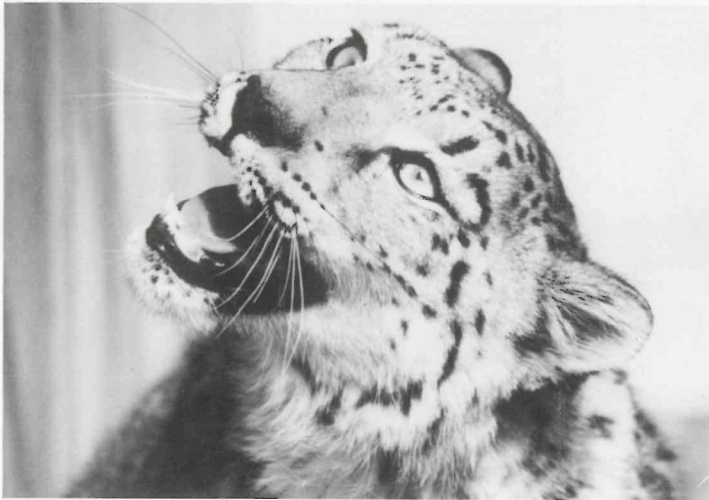
当園では、ネズミモチ、カシの木などの木の葉と、そのほかに、リンゴ、ミカン、パン、ニラ、ソラマメ、サヤエンドウ、煮馬鈴薯などを与えています。

木の葉などを主食としているため、ビスケットやおかしを与えると下痢など体をこわしやすいので、投げ与えないようお願いします。

(藤井頼久)



クロシロコロブス



## ユキヒョウ

今年の2月15日に待望のユキヒョウ、1頭が来園しました。王子にとって初めて飼育する動物です。ユキヒョウは食肉目ネコ科のヒョウの仲間です。毛色はクリームないしは灰白色で、黒い梅花状の斑紋があり、毛は長く、下毛が豊富です、成獣になると体長110cmで尾は長く90cmにもなる大型の豹です。

住んでいるところは、中央アジアの高原地帯、カシミール、シッキム、チベットの高山の岩の多い山腹で、昼間は岩穴にひそみ、夜行性で、野生のヒツジや、ゲッ歯類（マーモット、野ウサギ、ネズミ）や鳥などを捕えて食べています。

夏は標高3000～3900メートルの高地で暮し、冬は1800mの低地に移動します。

この大型の美しい豹を王子では前から飼育を希望していたのですが、大変貴重な動物で、中々入手できず、皆さん方にお見せすることが出来なかったのです。

ところが、札幌市円山動物園で飼育されていた夫婦に日本で初めて雄、雌2頭の子供が生まれました。円山動物園ではユキヒョウを飼育するにあたり、雌をアメリカのリンカーンパーク動物園から、ブリーディングローン（繁殖用のための借受け）で飼育しており、この最初の子の雌がリンカーンパークの所有動物となりますが、円山動物園とリンカーンパーク動物園の好意により、王子動物園で飼育できるようになりました。

この雌は「ユキエ」と名付けられた、昭和62年4月27日生まれのまだ可愛い子供ですが、王子で飼育するために、良い部屋を、と寝室には木製ベットを作り付けたり、運動場には本物の木を形よく並べて、ユキエが安心して暮せるための準備をしました。

これから良い“おむこさん”を迎え王子動物園の家族として、多くの赤ちゃんを作ってもらい、皆さんに見ていただきたいと頑張っています。

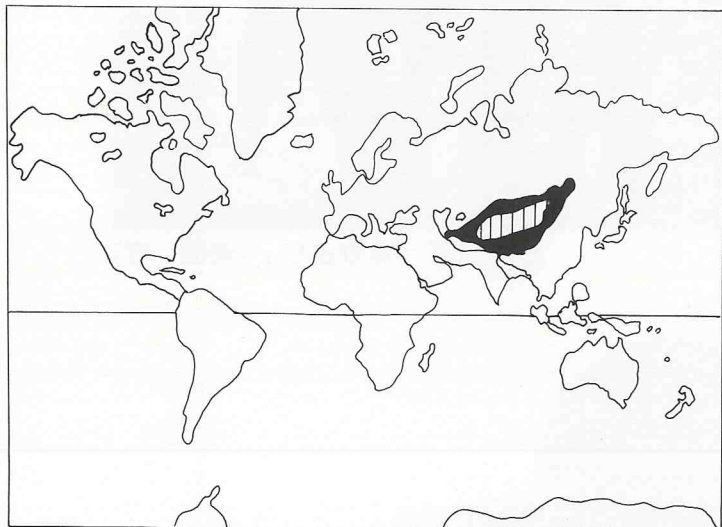
又、世界の動物園でされている希少動物の保存と増殖のための仕事の仲間入りをして、将来、生まれた子供を他園に養子に出せるようになりますと願っています。  
(福田元二)

### 生息地図

(寿命)  
飼育下で最高15年  
(妊娠期間)  
93～108日  
1産2～4子

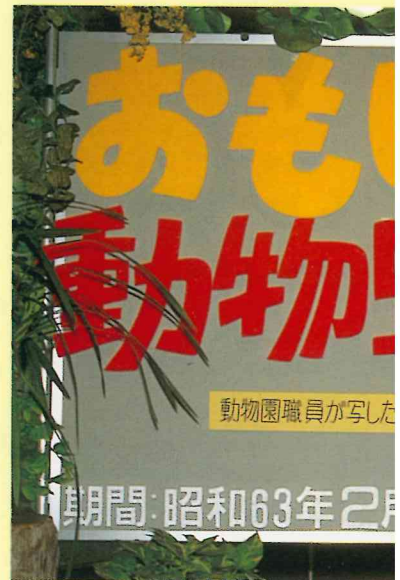


ユキヒョウ

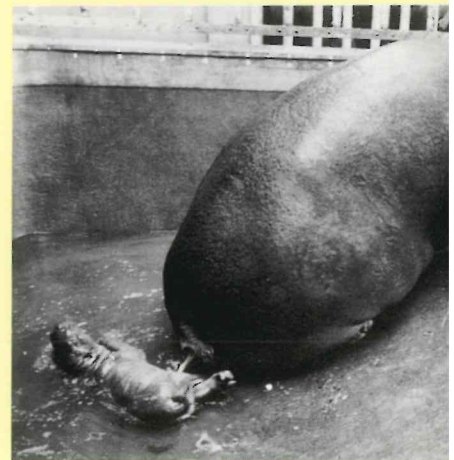




レッサーパンダ「お昼寝中おしずかに」(谷岡正之)



シマウマ「なかよし」(安福 守)



カバ





ダチョウ 「もうひとふんばり」 (福田豊光)



チンパンジー 「いい子いい子」  
(亀井一成)



マレーグマ 「盆おどり」 (福田元二)



産 (岸田一也)

# 飼育うらばなし

## グリーンイグアナの展示



グリーンイグアナを太陽の動物舎で飼育展示することになったのは、昨年(2012年)の11月のことである。その理由は、今年が辰年で、なにか動物園として辰にちなんだものを展示しなければならないということで、飼育係一同色々意見の交換を行っていた。しかし、辰という動物はこの世には存在しない動物であるため、そのもの自体を展示することはできない。毎年恒例となっている年賀の動物展示ができない、ということは淋しいものであり、何か一つ仕事が欠けたような気分がして仕方がない、という人もいて、辰に近い動物はないかということになった。辰はヘビ、シカ、ラクダ、トラ、コイ、ワシなどの動物を混ぜて造りだされた、仮空の動物ということで、これらの動物を一同に展示してはどうかとの話もでた。しかし、すべてを一堂に会するような場所もなくこの案はつぶれてしまった。

次にでたのがドラゴンという言葉である。西欧では辰のことをドラゴンともいうので、ドラゴンの名の付く動物を探すことになった。そして、初めに採用されたのがウォータードラゴンであったが、これは他園ですでに繁殖に成功しているため、面白味に欠けるという意見がでて、ウォータードラゴンの親戚筋にあたるグリーンイグアナを展示してはどうかということになった。私は太陽の動物舎で爬虫類、両生類、夜行

性動物の飼育を担当しているが、たしかに辰というと爬虫類の仲間のように思えるが、空想の動物が爬虫類に分類されるとは思わなかった。

爬虫類の飼育は哺乳類と違って分らないところが多く、難しいのである。

園にイグアナが到着したのは12月25日であった。

2匹のイグアナを正月までもたすのは大変なことであった。温度管理、餌の管理、獣舎の消毒等丸2日間このことに手を取られて、他の仕事が出来なかった。ただ、一つだけ心強く感じたのは、当園は昨年(2011年)から人工の太陽といわれるトルライトを太陽の動物舎では採用していたから、イグアナを室内展示しながら、太陽光線を沢山照射してやることのできると思ったからであ

る。しかし、いざ入れてみると、何も食べないようなのである。何時間観察していても、餌を食べている様子がないのである。私が、朝調理したレタス、ミンチ肉、バナナ等すべてに食べた形跡がないのである。これでは、正月前に死んでしまうということで、強制的に口からブドウ糖液を与えたりしてなんとか、もたすことができた。これも長く続けるわけにもいかず困っているところへ、九州でコオロギを繁殖させ、これを販売していると聞き、このコオロギを購入することにした。

コオロギが太陽の動物舎に着くと、今まで何の音もなかったコオロギの輸送箱から夏の夜に聞くことのできるコオロギの涼しい音色が流れだしてきた。爬虫類の展示コーナーで働く私は音のない世界にいたのですが、その時以来やさしい心なごむ音色につつまれて仕事が出来るようになった。今、太陽の動物舎はコオロギの音色で朝から晩まで一杯です。1月というのに暖房をしているため暖かく、その上コオロギの音色までが夏の夜を思いださせるようになりました。イグアナもコオロギが入ってから元気になり、我々も安心していきます。辰年はいかめしい年と思っておりましたが、私にはコオロギの涼しい音色を送ってくれました。この音色にふさわしいよい年にしたいと願っております。(岡本正勝)

# 動物病院珍問答

動物病院は園内の動物の健康管理を行っています。市民の方々から日に2～3件のペット相談があります。その問い合せの中には、珍妙な話のやりとりが起るときもあります。今回はその一例をお話してみたいと思います。

11月20日の午前11時頃、電話がかかってきました。電話をとると、若い婦人と思われる声が耳に入ってきました。「王子動物園の飼育の方ですか?」「ええ、そうですが、何か、御用でしょうか」と答えたところ、「あのう、私はマンションに住んでいるのですが、2週間程前、居間にリスが入ってきたのです。とてもおとなしくかわいらしいリスなので、家で飼うことにしてカゴを買い、餌をやっていたのですが、2日前から食べなくなって、動きが鈍くなってきたのです。ペットショップに電話したところ、リスは冬眠するから冬眠してしまったのではないかとのことでした。また、冬眠してしまうと動かなくなり、春まで目を覚まなくなるので、冬眠しないようにした方がいいとのことでしたが、どのようにしたら、冬眠しないようになるのか教えて下さい」との話でした。

私は暫く考え込んでしまいました。リスは、確かに冬眠し、クマと違って体温も2℃近くで下がり、冬眠に入ると呼吸数等も少なくなり、一見したところ仮死状態になります。しかし、マンションの居間で飼っているリスが、冬眠するとは考えられなかったからです。そこで、私が「奥さん、そのリスは呼吸をしていますか」と尋ねたところ「いいえ、手の中で動きません」と答えが返ってきました。そして、暫くして、その声の主が、「そうですね、耳とシッポが柔いだけで、他は硬くなっています」「そうですね、奥さん、そのリスを居間から外に出したことがありますか」と尋ねたところ、「いいえ、家の中に入れてそのままです」との答えが返ってきました。そして、間をおいて、その声の主が「そうですね、冬眠する程寒くありませんね」と同意を強く求めるような調子で答えると同時に、「このリス死んでいるのではないのでしょうか」という

声がして「あ、わかりました」で電話は切れてしまいました。私は答えになっているのかどうか考えるヒマもなく、話が切れてしまったので、こちらからリスの状態をこれ以上確かめることが出来ませんでした。しかし、話の状況から察するところ、リスは死んでいたのでしょうか。

冬眠する動物(哺乳類)はコウモリ、シマリス、ハリネズミ、マーモット、ハムスター、ヤマネなどが認められます。シマリスは冬、体温が2℃近くまで下がり、呼吸数も少なくなり、心臓の拍動数も1分間に10回程になります。

このため、仮死状態に近くなりますが、普通室内に飼育されているシマリスは冬眠しません。この1月に動物園に来たシマリスも飼育室で盛んに車を回していました。

珍しい動物を飼うとわからないことが沢山あり、本に書いてないことを体験します。一般の方がとまどうのは当然です。この奥さんも、冬眠しているとはばかり思って、リスを手の中に入れて、温めたりして、何とか元にもどそうとしたのでしょうか。小さなかわいいリスを手の中に入れて、一生懸命世話をしているときは、時間のたつのも忘れる程リスのことが気になったのでしょうか。しかし、死んだリスを手の中に入れていたと思ったとき、思わずゾーとして電話を切ってしまったのではないのでしょうか。

生き物は常に死というものが付きまとっていることを、心に止めておくべきでしょう。

餌や水、温度等について常に気を付け、また寿命という宿命を背負っているのですから、何歳ぐらいの動物を飼っているのか、そして、以前どのようなところで飼育されていたのか知っておくべきであると思います。

動物病院でも、新しい動物を展示する際はすべて、1週間～2週間程検疫期間を設け、その期間に異状のないものを展示するようにしています。

(加納 至)

# — 動物 なぜ なぜ 問答 —

## ●オオヤマネコの尾はなぜ短いのですか？

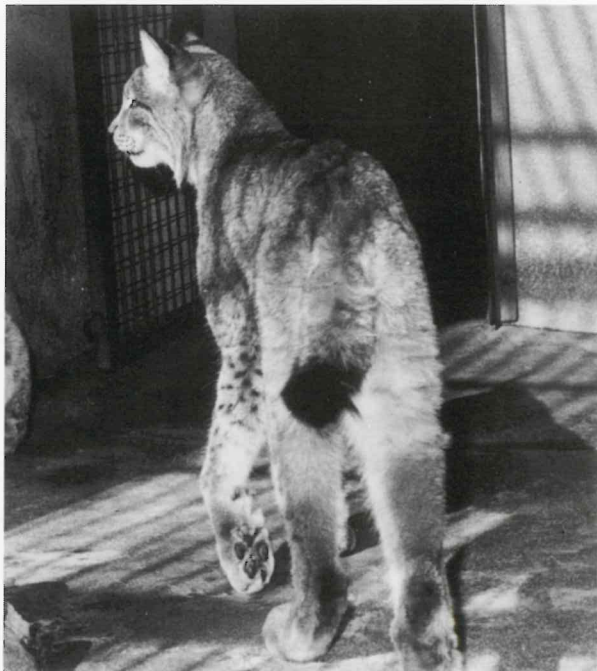
ほんとですね。よく気がつきました。

ふつうネコ科は、みな長い尾をもっていますが、リンクス（オオヤマネコ）とボブキャットは、なぜか切ったような短い尾をピンと立てています。

10センチと短かくても切ったのではない証拠に、先が黒い毛です。ボブキャットの先も、ボブとはプツンと切れたとの意味からきています。さて、

○オオヤマネコはヨーロッパ北部からシベリア。  
○ボブキャットは北アメリカ等、どちらも北極圏をとりまく寒帯の森林にすんでいることが、他のネコ類とちがっています。これは、つまり北の寒帯地のものほど体の表面積が小さくなる『アレンの法則』のひとつで尾が短い、ということなのでしょう。

また、耳の先にピンと長いふさ毛をもっていることも、オオヤマネコやボブキャットの特徴です。このように動物たちは、野生に適したさまざまな姿で生きているのですね。（亀井一成）



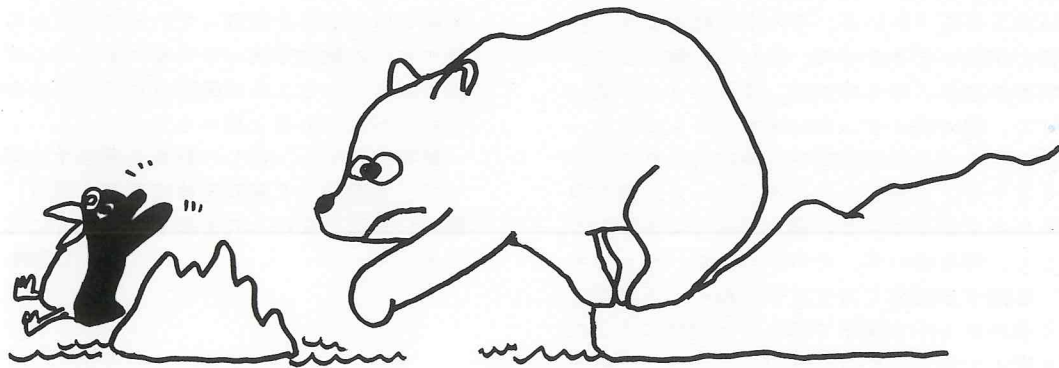
## ●どうしてシロクマは南極にいないのですか？

シロクマのことをホッキョクグマと呼ぶのは、その名のとおり北極地方に住んでいるからです。

でも、同じような気候の南極にいても、それほど不思議ではありませんね。ペンギンを餌にすることだってできるのですから——。

答：クマの仲間は大昔アジア大陸に現われ、北や南へ分布を広げていきました。北アメリカに住むグリズリー（あの大きなハイログマ）は、クマの仲間が南へ進出する時に、暑がり屋のホッキョクグマから分れた種類です。でも、そのグリズリーでさえ、熱い南米を越えて南極にまで行くことはできませんでした。大昔も、ホッキョクグマは暑いのが苦手だったのですね。

このように、動物たちはそれぞれに適した場所に現われ、進化していったのです。人間という、やや特殊な動物は別として……………。（村田浩一）



# 動物もの知り手帳

～なんでも知っちゃお！～

## 希少動物増殖のためのブリーディングローン

桜の花咲くうらかな休日、親子づれのお客様が楽しく一家団らんの一ときをすごしておられるのどかな風景は、動物園の見なれた風物です。

目の前には世界的に貴重な動物、アムールトラ、ユキヒョウ、ゴリラ君などが、さも昔からの住人のような顔で昼寝をしています。アムールトラはもう2代目の子供達が一人前となって皆様にお目見えしており、このような動物園生まれの動物達が多くなっているのが実情です。

ワシントン条約（絶滅のおそれのある野生動植物の国際取引に関する条約）を批准した日本の今日の時代ではもう野生の動物を捕えて動物園につれて来ることは大変少なくなっていますし、又貴重な野生動物を自然の中で保護することは世界の人々の願いでもあります。

さて、それでは、これからの動物園の動物達を死に絶やすことなく、次代に引き継ぐにはどのようにすればいいのでしょうか。

前号でもお話ししましたように、丈夫な子供達を作るためには、血統を明らかにし、近交劣化を防ぐために、できるだけ血の濃くないものとの結婚をさせなければなりません。

このことをうまくするために、希少動物には国際的に血統登録責任者が決められており、世界中の動物園はこの仕事に協力をしています。

ここ王子で飼育されるようになったユキヒョウについて、種の保存のための仕事がどのように行われたかをお話ししましょう。

ユキヒョウは日本でも札幌市円山動物園、上野動物園、名古屋市東山動物園でしか飼育されていません。もし3園だけで飼育していると、そこで生まれた子供達の近親交配をさけるための相手を見つけることは大変困難となります。

まず、王子に来たユキヒョウはどこで生まれた子供でしょうか。円山動物園で生まれた雌です。

円山動物園はユキヒョウを飼うためにアメリカのソルトレーク市ホーゲル動物園から雄を譲ってもらい、その花嫁さんはやはりアメリカのリンカーンパーク動物園の雌をブリーディングローン（繁殖を目的とした貸借）で迎えました。

この夫婦から昭和62年4月27日に日本で初めてユキヒョウが生まれました。このときの子は双子の雄雌でした。さて、ブリーディングローンの契約により、雌はリンカーンパークのものとなり、雄は円山動物園のものとなりました。

そこで円山の園長さんが、リンカーンパークの園長さんにこの雌のお嫁入り先を相談されたのですがリンカーンパークの園長さんは日本の動物園で希少動物であるユキヒョウを保護、増殖させるための良い動物園があれば貸してもよいと言って下さったので、円山の園長さんが王子動物園を推選して下さいました。

それで王子動物園とリンカーンパークがブリーディングローンの契約書を取りかわし、王子にユキヒョウが来ることに決まりました。

しかし、子供を増やすには良いお婿さんを迎えなければなりません。日本ではまた他の園で子供が生まれていませんので、このお婿さん選びをユキヒョウの国際血統登録責任者であるフィンランドのヘルシンキ動物園にお願いしました。

良い縁談がまともれば近いうちにカップルのユキヒョウを見ていただけるでしょう。どうぞお楽しみに！王子ではこの他にブリーディングローンで他園に貸出しをしたり、借り受けをしたりしています。日本でも血統登録をしている、カリフォルニアアシカやニホンカモシカです。

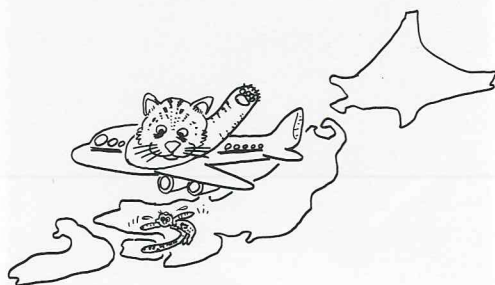
王子のアシカは子だくさんなので、秋田や東京の動物園に嫁入り、婿入りをして、多くのお友達に可愛がっていただいています。又森林植物園のカモシカは横浜の動物園からお婿さんを迎えております。

王子から嫁に出して家族の少なくなるのは少しさびしいことですが、きっと嫁入先で良い子をたくさん増やしてくれることでしょう。そうなればもう自然の中で自由に暮らしている動物達を捕まえることも無くなるでしょう。

動物園ではこのように一部ではありますが、野生動物の保護のための仕事が進められています。

これからも、もっと多くの動物達が、国際的なブリーディングローンで動物家族を増やしていくことを動物園のおじさん達は願っているのです。

(権藤真禎)



# 動物科学資料館の手引②

## ～楽しく見るために～

### ◆動物とその環境(1) 住む

動物が住んでいる環境はさまざまですが、きびしい環境の中で、自分の身や子どもの安全を守るために、動物たちは智慧を働かせ工夫をしながら暮しています。それは、長い進化の道のりの中で遠い祖先からひきついだものです。

このコーナーでは動物の暮らしぶりを模型や装置などを使って解説しています。



#### 1. サバンナの環境と動物の生態

サバンナには乾季と雨季があり、雨季には草が茂り、乾季には一面枯れてしまいます。この地域一帯は、高い木があまりないため見通しがよく、速く走るキリンやシマウマなどの草食動物とこれを追っかけるライオンやハイエナなどの肉食動物が共存しています。

これらの動物の暮らし方やえもの取り方、また乾季には水を求めて移動する姿を、動物の鳴き声の入った説明を聞きながら、ミニチュアの模型で見ることができます。

#### 2. 動物の収れん

収れんとは生物が生息している環境に合わせて形や生理を遺伝的に変化させることを言います。ここでは異なった種類の動物でも住む環境が似ていれば、その場所への「適応」によってよく似た型態や暮らしぶりが見られます。

前足を例にとって、コアラなどの樹上動物、ライオンなどの地上動物、モグラなどの地中動物、カワウソなどの水中動物の構造が分かりやすくパネルで解説しています。

#### 3. 冬を過ごす

動物は暖かい所ばかりに住んでいるわけではありません。日本のように厳しい冬を無事に越さねばなりません。動物たちが食べ物が少ない冬を乗り越えるためには、秋に多くの食物を食べ、体の中に栄養をたくわえたり、巣の中に食べ物を貯蔵したりします。また、ある動物は冬眠することによってエネルギーの消費を防いだり、昆虫のように型を幼虫やさなぎに変えて冬を越します。

この越冬の様子を白山山ろくをモデルにした地中の断面模型で、実物そっくり再現しています。ニホングマが木の根元の穴ぐらでゆっくりと息をしながら冬眠している姿をぜひご覧ください。

#### 4. 鳥の移動

日本の渡り鳥には、南北に移動するものがほとんどで、越冬や繁殖のために渡りをしています。ツバメなど、夏に日本にやって来て繁殖し冬には南へ帰る夏鳥と、コガモなど冬に日本にやって来て夏は北へ帰って繁殖する冬鳥があります。そのほか、日本を通過して南や北へ渡る鳥もいます。渡りは群になって移動し、昼間は太陽を、夜は星座を見て位置を確認しながら飛行をされると考えられています。

このコーナーでは、夏鳥としてオオルリ、サシバ、ツツドリを、冬鳥としてヒレンジャク、コガモ、タゲリをはく製標本で展示し、渡りの様子をパネルで解説しています。



(谷岡正之)

# トピックス (62年7月～63年1月)

## ◆夏休みの催し物



小学生のための催し物として、サマースクール（7月25日～31日）と動物絵画教室を行いました。サマースクールでは、カワウソとハクチョウをテーマにお話、映画、園内見学等を実施し、また動物絵画教室ではキリンをテーマに、動物の体の構造を観察しながら絵を描くという新しい試みの教室を開催し共に好評を得ました。（◀写真）

## ◆動物科学資料館・特別展

動物科学資料館の特別展示室でいろいろな特別展を実施しました。

### ・「熱帯雨林の世界」(7月25日～12月13日)

ここでは、光、音、映像、はく製、パネル等を使って、熱帯のジャングルやスコールをリアルに再現しました。

### ・「うさぎ年からたつ年へ」展(12月24日～1月5日)

本物のうさぎとたつ（タツノオトシゴ）を中心に、'87の出来事や、新しく生まれた動物の子供たちを、パネルを使ってにぎやかに展示し、'87をふり返りながら新年を祝いました。（◀写真）



### ・たつ年賀状版画コンクール特別賞入賞作品展

(1月8日～31日)

たつにちなんだ賀状版画を11月から募集し、入賞作品137点を含む全応募作品1897点を一斉に展示しました。

### ・おもしろ動物写真館(2月4日～3月8日)

王子動物園の飼育係が写した動物の珍しい写真、微笑ましい写真、こっけいな写真45点を集めました。(見開きに一部を掲載しています。) 以上の特別展、いずれも入館者の好評を得、大成功を収めています。

## ◆旧ハンター住宅内部公開(8月1日～31日、10月1日～31日)

8、10月の2月間、普段見られない旧ハンター住宅の内部を一般に公開しました。

## ◆映画大会実施

この4月にオープンした動物園ホールで、8月にはマラソン映画大会と題して動物映画を連続上映、またお正月には、動物アニメ映画大会を開催し、好評を得ました。

## ◆レッサーパンダ来る！(12月16日)

福井県鯖江市からレッサーパンダ(雌)を譲り受けました。名前は遊遊、1歳半です。名のとおりよく遊び、元気に暮しています。

## ◆第2フラミンゴ池完成(12月25日)

当園のフラミンゴは、毎年多くの子供が生まれ、今年183羽の大所帯となったため、住居が狭くなりました。このため従来の白鳥池を改造して第2フラミンゴ池とし、チリーフラミンゴ、コガタフラミンゴ71羽が引っ越しました。  
(村井秀徳)

# たつ年賀状版画コンクール特別賞入賞作品

## 特別賞

神戸市長賞



嶋 修斎

神戸市立  
王子動物園長賞



黒木 ひろみ

神戸新聞社賞



亀井 麻美

サンテレビジョン賞



吉実 正和

神戸市教育委員会賞



大木 重人

神戸市  
動物愛護協会賞



高木 賢二

神戸王子動物園協会賞



中部 憲一

### 上段(左より)

神戸市長賞  
神戸市中央区……………嶋 修斎さん  
(41歳)  
神戸市立王子動物園長賞  
神戸市垂水区……………黒木ひろみさん  
(5歳)  
神戸新聞社賞  
御影高・1年……………亀井 麻美さん

### 下段(左より)

サンテレビジョン賞  
高倉台小・6年……………吉実 正和さん  
神戸市教育委員会賞  
大正小・6年……………大木 重人さん  
神戸市動物愛護協会賞  
鶴越小・3年……………高木 賢二さん  
神戸王子動物園協会賞  
神出中・3年……………中部 憲一さん

### ◆編集後記◆

はばたき23号をお届けします。もうすぐ春です。園内では桜のつぼみがふくらみ、また、動物たちも暖かな春を待ち望んでいるようです。動物科学資料館のオープン一周年、動物たちのベビーラッシュ、とこれから園内がにぎやかになり、楽しい話題が提供できることと思います。



63全国高校総体  
63.7.31～8.20



はばたき 第23号

昭和63年 3月20日発行

編集：神戸市立王子動物園  
TEL. (078)861-5624

発行：神戸王子動物園協会  
TEL. (078)801-5711  
神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社